

中世の尼崎の歴史は？

中世（ちゅうせい）は、鎌倉時代～戦国・安土桃山時代までの期間を指します。（平安時代末期を始まりとする見方もあります）尼崎市立地域研究史料館の「図説尼崎の歴史」には年表で次のようにまとめられています。戦乱が続く時代にあって、生き抜くのがなかなか大変なことがわかります。

日本史の時代区分



中世	1192 (建久3)	7・12 源頼朝、征夷大將軍となる。
	1287 (弘安10)	1・時宗開祖として諸国を遊行しながら布教した一遍上人が、尼崎を訪れ勧進を行なった。
	1336～1392 (南北朝時代)	交通の要衝である尼崎は、しばしば戦乱の舞台となった。この前後、尼崎合戦・坂部合戦・神崎合戦・浄光寺合戦 などがあった。
	1338 (延元3・暦応元)	8・11 足利尊氏、征夷大將軍となる。 この年、石清水八幡宮再建に尼崎番匠（棟梁大工）が加わる。尼崎番匠は神崎番匠とともに各地の社寺を造営。
	1351 (正平6・観応2)	2・26 足利尊氏の有力家臣、高師直・師泰兄弟が、武庫川の東で足利直義方の上杉能憲らに襲われ殺害された。
	1420 (応永27)	6・27 朝鮮使節の宋希璟が尼崎に宿泊。付近の農村の三毛作について記録した。
	1467 (応仁元)	5・応仁の乱が始まる。 8・7 大内政弘勢が尼崎町を焼き討ちし女子供まで殺害。
	1487 (長享元)	この年、大徳寺如意庵領鳴尾田から「富松城縄竹代」を出銭した記録があり、この頃までに富松城が築かれたと考えられる。
	1531 (享禄4)	6・大物くずれ。細川高国は細川晴元勢に敗れて尼崎へ逃れ捕えられ、8日に大物の広徳寺で切腹させられた。
	1568 (永禄11)	この年の夏、ポルトガルの宣教師、ルイス・フロイスが尼崎を訪れ、キリスト教を布教した。
	1569 (永禄12)	3・6 尼崎衆が信長の軍勢に抵抗したため、長遠寺・如来院を除いて尼崎町が焼き払われた。
	1578 (天正6)	10・荒木村重、信長にそむく。翌天正7年末に有岡城（伊丹）落城、村重妻子・配下五百余人を七松で処刑
	1584 (天正12)	この頃、建部高光が尼崎郡代として尼崎城に在勤した。
	1588 (天正16)	閏5・14 秀吉配下の武将・佐々成政が任地肥後国の国衆一揆の責めを負って、尼崎で切腹させられた。
	1592 (天正20)	5・三平井組・大井組水論で乱闘があり、双方庄屋斬罪。こののちも猪名川・武庫川両水系でしばしば水論。